

報告「オンライン国立公園映像コンサート」の制作

宮地 信良

江戸川大学国立公園研究所客員研究員

1. はじめに

国立公園研究所は、2020年11月の江戸川大学学園祭「駒木祭」で学内の会場でのライブコンサート「国立公園映像コンサート」を開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染がまだ収まらない状況であったため学園祭がオンラインでの開催となり、「国立公園映像コンサート」の動画を制作してYou Tubeで発信することになった。この動画は同年の11月3日に駒木祭のページにアップされ、その後は江戸川大学国立公園研究所のページ上にアップされて現在も見ることができる。動画の制作は私がかかわったものであったが、観賞された方から多くの感想や意見をいただいたので、本稿で動画制作のコンセプト、概要、制作に当たっての留意点等について報告したい。

2. 国立公園映像コンサートのコンセプト

我が国では、国立公園の関係者以外は国立公園についての認識が十分とは言えないのが現状であり、その趣旨や制度あるいは抱える問題などはもちろん、公園の名称や自然の特徴さえも広く知られているとはいえない。このため今回の学園祭では国立公園にあまりなじみのない方々にも国立公園を理解していただき、できればそのファンになってほしいと考えた。その結果、ライブのコンサートを一つの魅力の要素としてメインに据え、この中で国立公園の美しい写真を見ていただきながら国立公園の名前や自然の魅力、さらには公園管理の問題等も含めてキャプションで提示する「国立公園映像コンサート」という形の作品を制作することにした。学園祭という「お祭り」の中であるので、「国立公園映像展」ではなく、あくまで「コンサート」にこだわったのである。

演奏内容は基本的にはクラシック及び周辺の音楽とし、栃木県内で幅広く演奏活動を行っている「マロニエトリオ」(バイオリン、ビオラ、ピアノ)に演奏を依頼した。ドラマの主題歌や映画音楽など親しみやすい

曲も入れたかったので、この団体はこちらの幅広い希望曲を自らトリオ用に編曲をして演奏してくれるという点でも有難かった。



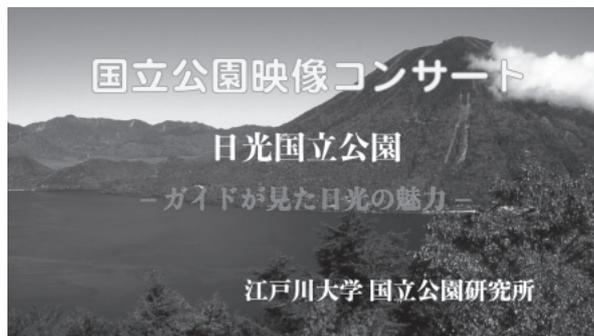
マロニエトリオ

3. 4本の動画の構成とテーマ

映像の内容としては、日本のいくつかの国立公園を取り上げ、公園ごとに特徴や見どころ、起きている問題などを具体的に紹介する形が良いのではないかと考えた。しかし新たに写真の撮影に出かけるということはほぼ不可能であったので、私の手持ちの写真が多い日光国立公園と尾瀬国立公園を中心に、東日本の8国立公園を紹介する3～6分の動画を次の4本の構成で制作することにした。なお、これらは各々独立した内容になっている。

従来から国立公園の計画管理は保護と利用に分けて考えられてきた。しかし高度成長時代が去り高齢化と過疎化が進む社会情勢の中では、保護と利用を統合して「国立公園のワイズユース」といった観点で、公園ごとや地区ごとのワイズユースの目標やその達成方法を考え出してゆく作業が必要なのではないか、と私は考えている。本編の映像とキャプションでも、各国立公園の従来のイメージにとらわれず、できるだけ国立公園の新たな利用や今まで見過ごされていた自然にスポットを当ててみた。映像をご覧になった方が、風景の新しい視点を発見するヒントになれば幸である。

作品1 グリーンシーズンの日光国立公園「ガイドが見た日光の魅力」



■ねらい：東照宮、華厳の滝など、観光地のイメージが強い日光だが、それ以上に、変化に富み、深みのある自然が魅力であり、そこで様々なガイドツアーや自然体験も行っていることを訴えたかった。

■音楽：日光のあらゆる面を包み込んでいるイメージがあり、音楽的にも優れた作品であるベートーベンのピアノソナタ「悲愴」の第二楽章を全編に使った。



作品2 冬シーズンの日光国立公園「奥日光・冬の美を訪ねる」



■ねらい：奥日光の冬は一般に「シーズンオフ」と言われているが、寒さが厳しいことから様々な水の造形が見られ、またスノーシューをはじめとする冬の新たな利用の可能性があり、冬も十分に魅力的な場所であることを強調したかった。

■音楽：冬をイメージする、誰でも知っている音楽として「冬の童謡メドレー」とした。



作品3 尾瀬国立公園「地上の楽園・尾瀬」



■ねらい：自然保護の原点と言われ、また最も「国立公園らしい国立公園」とも言われる尾瀬の魅力の中心はやはり湿原であり、これをメインとして保護管理上の問題もできるだけ取り上げるようにした。

■音楽：尾瀬を有名にした一つのきっかけともなった「夏の思い出」以外には考えられなかった。



作品4 東日本の8国立公園「東日本8国立公園巡り」



■ねらい：江戸川大学のある千葉県からも比較的行きやすい東日本の8国立公園がそれぞれ異なった特徴と魅力を持ち、また新たな風景の魅力を発見することも示すようにした。

■音楽：山、北海道などそれぞれの公園にイメージが合った音楽、またいくつかの公園を移動する旅をイメージしたものとしてサウンドオブミュージック、NHKの小さな旅のテーマ、北の国からのテーマの3曲とした。



4. 「映像コンサート」制作に際して留意した点

- ・映像とそのキャプションについては、一枚一枚の映像に意味があるように、また全体としてストーリーがあるように考え、単なる美しい写真の羅列に終わってしまわぬよう気をつけた。また国立公園の管理上の問題等にもできるだけ触れるようにした。
- ・キャプションは、長すぎると読み終わらないうちに次の写真に進んでしまうので、言葉足らずは覚悟のうえで、なるべく簡潔になるよう配慮した。
- ・オンラインではあってもコンサートの雰囲気重視だった。このため演奏はホールを借り切って生演奏とし、これをプロ仕様の録音機材とプロの音響技術者(高崎利成氏)に依頼して収録した。ホールは日光国立公園内に立地する日光総合会館のホール(収容人数約900名)である。

- ・音楽と映像を結びつける形になるので、写真やそのテーマと音楽のイメージがバラバラでないことが必要になってくる。テーマが大きく変わる瞬間に合わせて音楽を切り替えたいという場合もあり、また



収録会場の日光総合会館

キャプションの長さによって一枚の写真の時間を微妙に変える必要もあったが、ここは技術者の高崎氏の腕に負うところが大きかった。

5. 2021年の「国立公園映像コンサート」

2021年の駒木祭もオンラインでの「国立公園映像コンサート」を制作することになった。今回は国立公園の自然を「木と森」、「花」、「山と水」、「生きものと動物」の4つの分野に分けて紹介する形にしたい。その際、種の羅列や図鑑風にならないように留意したいと考えている。

国立公園を取り巻く社会情勢に起因する公園管理上の問題が大きくなっており、各自然の分野ごとにこれ

らについても触れてゆきたい。

なお学内でライブコンサートを行った場合には映像なしのコンサートも予定していたので、それを凝縮して「国立公園コンサートin日光」と銘打ち、15分ほどの演奏のみの動画も併せて制作する。収録会場は、日光国立公園特別地域内にあり、歴史的にも重要な建造物である「日光田母沢御用邸」を予定している。

多くの方にご覧いただき、ご批判を頂戴できれば幸いです。

※国立公園映像コンサートの制作に際しては、多くの方から写真の提供をいただいた。この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。